

● 表彰事業報告

経済産業大臣賞の三菱重工エンジニアリング(株)など、優秀な産業用の省エネ、
脱炭素機器を 9 件 10 社表彰、
一日機連、令和 3 年度優秀省エネ脱炭素機器・システム表彰式を開催



記念撮影(来賓と受賞企業代表者)

日機連は 2 月 15 日(火)、機械振興会館において、令和 3 年度**優秀省エネ脱炭素機器・システム表彰式**を開催した。表彰式では、大宮英明会長(三菱重工業(株)相談役)の式辞(記事末参照)のあと、藤木俊光経済産業省製造産業局長から経済産業大臣賞(1 件)、安本博雄資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー一部省エネルギー課課長補佐から資源エネルギー庁長官賞(2件)、米村 猛中小企業庁長官官房中小企業政策統括調整官から中小企業庁長官賞(1 件)、河原 圭産業技術環境局エネルギー・環境イノベーション戦略室長から産業技術環境局局長賞(1 件)、大宮会長から日本機械工業連合会会長賞(4件)をそれぞれ表彰した。受賞機器の詳細については、当連合会のホームページ(<http://www.jmf.or.jp/commendations/1/2894.html>)を参照。(文責・日機連)



大宮会長式辞



経済産業大臣賞

(藤木製造産業局長と三菱重工エンジニアリング(株)栗木室長)



産業技術環境局局長賞

(河原産業技術環境局室長と川重冷熱工業(株)山出取締役)



日本機械工業連合会会長賞

(大宮会長と日立造船(株)鎌屋常務取締役)

表彰状授与に続き、来賓を代表して藤木俊光製造産業局長の挨拶、優秀省エネ脱炭素機器・システム審査特別委員会の松本洋一郎委員長(東京大学名誉教授)から審査報告、経済産業大臣賞を受賞した三菱重工エンジニアリング(株)の栗木英紀脱炭素事業推進室長から受賞企業を代表しての謝辞があり、表彰式を終了した。



来賓挨拶(藤木製造産業局長)



松本委員長審査報告



経済産業大臣賞受賞企業による謝辞

(三菱重工エンジニアリング(株)脱炭素事業推進室室長・栗木英紀氏)

なお、本表彰制度は、政府の「2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会を目指す」宣言を受け、この目標達成に貢献すべく令和 3 年度から表彰名を「優秀省エネ脱炭素機器・システム表彰」に改め、優秀な産業用の省エネ機器・システムのみならず、脱炭素機器・システムも表彰対象に加え、その普及と一層の開発促進を目的に事業を推進している。

(大宮会長式辞)

今年度の優秀省エネ脱炭素機器・システム表彰式にあたり、主催者を代表し、一言ご挨拶申し上げます。

本表彰制度は、1980年度に発足し、経済産業省をはじめ産業界の皆様、また、審査に携わっていただきました学識経験者の皆様などのご支持を得て、本年度で41回目を迎えることができました。

この間に、約500件の優秀な機器・システムを表彰することができ、改めて、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

省エネルギー技術の開発に関しては、政府の適切な施策と産業界の関係各位の並々ならぬ努力が相まって大きな成果を生み、我が国は世界最高水準の省エネ大国となっています。

昨今、エネルギー環境は、人類の喫緊の課題と位置づけられ、特に地球温暖化への対応は避けて通れない状況です。その中で、政府は、「2050年カーボンニュートラル」を目指すことを宣言し、2030年の温室効果ガスの、新たな排出削減目標を示しました。この実現には、徹底した省エネのための技術開発が必要とされるだけでなく、化石燃料の代わりに、アンモニアや水素を利用する技術、CO₂を除去する技術、あるいは、CO₂を有効活用する技術など、脱炭素技術の開発が必要となります。そこで、私どものこの表彰制度が、少しでも貢献できればと思い、昨年度より、省エネ機器に加え、脱炭

素機器も募集対象とし、本年度は、表彰名称にも脱炭素を加え、「優秀省エネ脱炭素機器・システム表彰」と改称しております。更には、脱炭素機器を対象とした、「産業技術環境局局長賞」を、新しく表彰に加えることが出来ました。

本年度の応募総数は16件であり、この中から、本会に設置している審査特別委員会の公正な審査により、経済産業大臣賞 1件、資源エネルギー庁 長官賞 2 件、中小企業庁 長官賞 1 件、産業技術環境局 局長賞 1件と、他の 4 件を含めた、合計 9 件の機器・システムが表彰対象に選考されました。受賞された何れの機器も、開発に携わった研究者・技術者のご尽力が結実した素晴らしい成果であり、また、我が国の省エネルギー技術や脱炭素技術を一層高度化する上で非常に重要なものであります。受賞者の方々に心から敬意を表しますとともに、ご多忙の中、精力的に審査にご尽力いただいた委員・幹事の方々をはじめ、関係者の皆様に、改めて厚く御礼を申し上げます。

最後になりますが、本日ご列席の皆様方のますますのご発展をお祈りいたしまして、私の式辞とさせていただきます。ありがとうございました。

令和 3 年度 優秀省エネ脱炭素機器・システム表彰一覧

賞	分類	機器・システム名	表彰対象者名	本社所在地
経済産業大臣賞	脱炭素	新開発アミン吸収液を採用した CO ₂ 回収システム(KS-21™ 吸収液を採用した Advanced KM CDR Process™)	三菱重工エンジニアリング株式会社	神奈川県 横浜市
資源エネルギー庁 長官賞	省エネ	非接触シールを採用した高効率排水処理用ルーツプロフ (BO 型)	株式会社アンレット	愛知県 海部郡蟹江町
資源エネルギー庁 長官賞	省エネ	ボイラ燃料制御最適化システム (ULTY-V plus)	郵船出光グリーンソリューションズ株式会社	東京都 品川区
中小企業庁 長官賞	省エネ	レーザー式ホタテ貝殻穴開けロボットライン	高丸工業株式会社	兵庫県 西宮市
産業技術環境局 局長賞	脱炭素	ドライ式低 NOx 水素専焼小型貫流ボイラ	川重冷熱工業株式会社	滋賀県 草津市
日本機械工業連合会 会長賞	省エネ	UG 温水トータルシステム	株式会社ヒラカワ	大阪府 大阪市
日本機械工業連合会 会長賞	省エネ	ロボット周辺の供給用ホースを排した高粘度液塗布装置	兵神装備株式会社	兵庫県 神戸市
日本機械工業連合会 会長賞	省エネ	超コンパクトモジュール型ハイブリッド熱処理炉(EC Hybrid II)	株式会社エコム 共同申請者：中部電力株式会社	静岡県 浜松市 共同申請者：名古屋市
日本機械工業連合会 会長賞	脱炭素	PEM 型 水素発生装置 (HYDROSPRING®)	日立造船株式会社	大阪府 大阪市

※資源エネルギー庁長官賞、日本機械工業連合会会長賞の表彰機器・システムは応募受付順

〔業務部〕